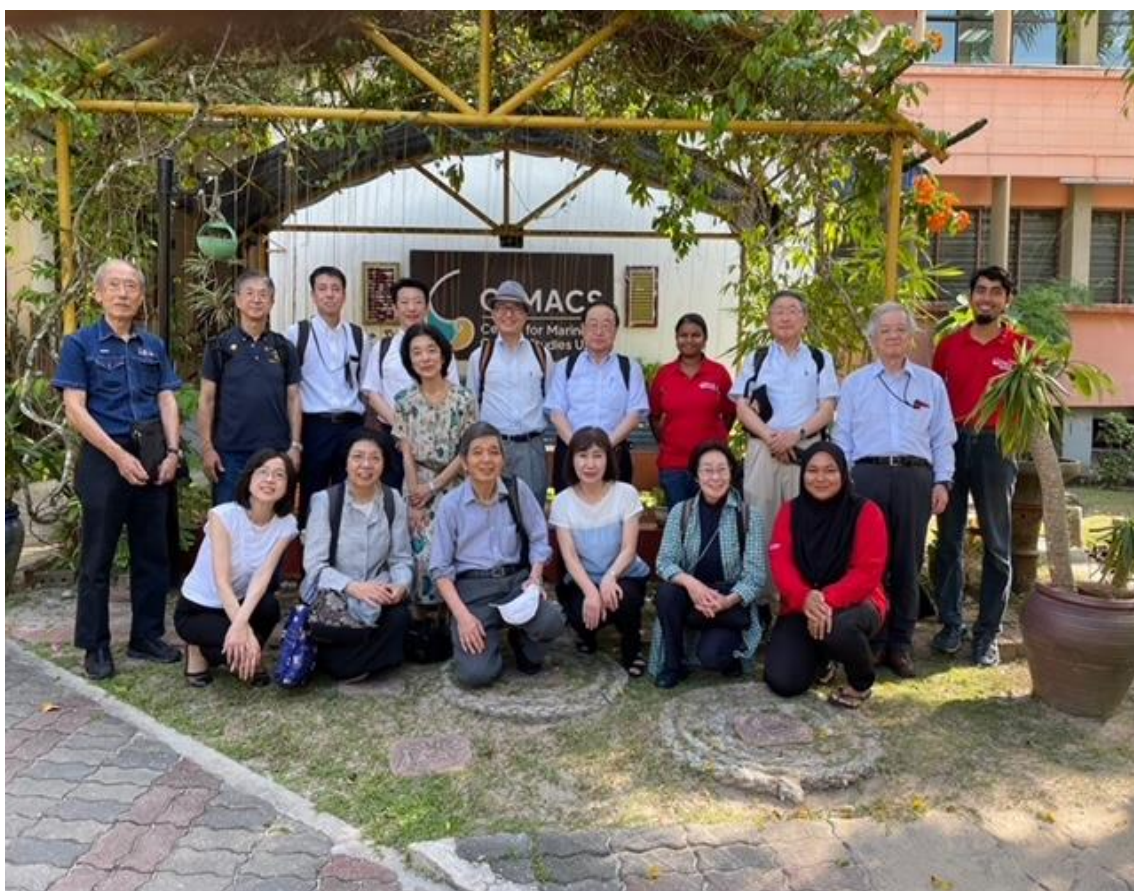


日本学校教育学会  
2023 年度 国際交流委員会・実践研究委員会共催  
マレーシアスタディツアー報告書  
2024. 2. 12~2. 16



## 目 次

日本学校教育学会における海外スタディツアーの意義	多田 孝志	1
マレーシアスタディツアーの概要	中山 博夫	3
USM 学術交流①日本側の発表 — 歴史教育・キャリア教育・環境教育 —	下島 泰子	5
USM 学術交流②マレーシア側の発表 — マレーシアの教育（道德教育、難民） —	山崎 保寿	7
マレーシア科学大学 海洋・沿岸研究センター — CEMACS : Centre for Marine and Coastal Studies —	神永 典郎	11
ペナン日本人学校の視察研修 I — 日本人学校の概要・現地理解教育 —	齋藤 道子	15
ペナン日本人学校の視察研修 II — 英語教育 —	澤井 史郎	18
極楽寺 (KEK LOK SI TEMPLE)	西川 寿美	19
第 2 回国際交流委員会ミニ国際交流シンポジウム (マレーシア) の活動内容と活動の成果	林 尚示	21
第 2 回国際交流委員会ミニ国際交流シンポジウム — マレーシアスタディツアーの経過報告を中心に —	眞壁 玲子	23
ロヒンギャ難民教育施設 — マレーシアにおける難民支援と共生 —	守内 映子	27
ロヒンギャ難民施設 (マレーシア) の様相と所感	青木 一	35
世界遺産ジョージタウンの歴史探訪 — マレーシア・ペナン島における多文化共生の文化と社会 —	祐岡 武志	37
感謝のまとめ	中山 博夫	43
マレーシアスタディツアー参加者名簿		44

## 日本学校教育学会における海外スタディツアーの意義

多田 孝志（金沢学院大学）

炎天の下、ペナン科学大学の学生の案内で、ペナンのジョージタウンの海岸部に位置する海上生活者の集落クラン・ジェティの栈橋を歩いた。朽ちた材木で建てられた住居を見ながら、海の上に生活の場を求めた人々の思いを想像した。

海のかなたに見える大型の集落を遠望しつつ、なぜか恩田陸の同名小説を映画化した音楽ドラマ、『蜜蜂と遠雷』（監督石川慶）の一シーンを思い出した

この映画は、国際ピアノコンクールを舞台に、4人のピアニストたちの成長を描いている。若き3名の天才ピアニストのストーリーもさることながら、私は、28歳の最年長者高島の物語に強く共感した。妻子があり、楽器店でサラリーマンをしている高島は、自分の能力の限界を感じながらも、夢をなかなか諦め切ることができず、仕事をしながら厳しい練習をし、コンクールに挑戦した。

彼は「生活に根差した、だれにでも分かるピアノを弾きたい」「本当に地に足についた音楽を弾きたい」と語り、コンクールでは、聴衆の心に響く演奏をした。しかし、一次予選は突破したものの、惜しくも最終審査には残れなかった。

「生活に根差した」「本当に地に足についた」との彼の言葉に、国際理解の視点から教育実践を探究する一人として深く共感した。

その日の午後は、ロヒンギャ難民教育施設を訪問した。これまでもアフリカ、東南アジアなど、世界各地の難民施設を訪ねてきた。そこで出会ってきた子供たちと同じく、ロヒンギャの小さな子供たちも「学ぶことが楽しい」と口々に言っていた。将来の夢を聴いてみると、ほとんどの子がドクター（医師）になりたいと応えてくれた。この回答の背景に子供たちのこれまでの生命の危機にさらされてきた厳しい生活を感じた。

スタディツアーの目的には、学術交流とともに、実際に現地を訪問することによる多様な文化の理解がある。中近東・中南米・北米に住み、現地の人々と交流してきた自己体験から、価値観・生活習慣、思惟方式、宗教などの異文化を持つ人々と心の襞まで理解し合うことは殆ど不可能と考えている。

なんとか少しでも相互理解を深める、そのためには、「共通性」への気づき・発見が大切ではないだろうか。文化の異なる人々への理解を深めるために、人間としての共通の願いを見出すことが役立つことが多々ある。ブラジルの高原都市ベロ・オリゾンテに3年間、住んでいたときのことである。日本映画週間があり、黒澤明監督の「生きる」が上映された。地味な内容にもかかわらず、映画が終了するとブラジルの人々がいっせいに立ち上がって拍手をした。真摯な人間の生き方に共感する、民族を超えた「人間の共通性」を感得した一瞬だった

今回のスタディツアーでは、多くの異文化をもつ人々と出会った。それらの人々の言動、生き方、生活に

直接ふれると、そこに、人間同士として共通の思い、願いを見出すことができた。

他者との関りで大切なのは、シンパシー (sympathy) とエンパシー (empathy) であろう。

シンパシーとは、かわいそうな立場の人や問題を抱えた人々に対しての、思いやりや同情、共感、哀れみなどの感情のこととされる。他方、エンパシーとは、ただ相手に対して同情することとは異なる。相手の立場に立って、積極的に相手の気持ちをくみ取ろうとする姿勢を指す。エンパシーは自然に湧き上がる感情ではない。エンパシーを意図的に育む、ここに多文化共生社会に対応した学びの目的があろう。

本スタディツアーでは、人々の生活の場の訪問と学術的交流が企画・実施された、シンパシーとともに、エンパシーを育む大切さが感得できた旅となった。

この旅で、心に残ったのは、私たち視察団をサポートしてくれたペナン科学大学の学生たちとの交流であった。派遣団員2～3名に一人の学生がよりそってくれた。山崎保寿先生と多田とのチームのハビッツ君は21歳の大学院生、各所を案内してくれる折節に、日本について、学問の世界について質問してくれ、猛暑の道では日陰を配慮し、長い歩みの道では疲れをきづかってくれた。最終日には別れを惜しみ、小さな土産まで手渡してくれた。その何気ない心遣いに、日本の学生たちが失いがちな爽やかな品格を感じた。

異国を訪ね現地の人々と交流するスタディツアーの根本的な意義は人間の生き方に共通する精神を感得することにあるのではなかろうか。

真の国際性とは、煌びやかな語学の才でも、国際舞台での華やかな活躍でもない。むしろ、この旅の期間中、親身に寄り添ってくださった副田雅紀先生（日本文化センター顧問）、マレーシア科学大学の先生方、そしてペナンの若者たちが示してくれた遠来の訪問者に心をつかう、相手の立場を思いやる優しさではないだろうか。その基底には互いに人類の仲間だという共通性への自覚がある。

民族は異なっても、人間の精神には共通性がある。この共通性こそ国際性の基調である。このスタディツアーの意義は、このことを確認したことにあっただけではなかろうか。

## マレーシアスタディツアーの概要

中山 博夫（目白大学）

### 1. マレーシアスタディツアーのねらいとプログラム

国際交流委員会では、本学会の一層の国際化・グローバル化に向け、東アジアを中心に9回のスタディツアーを実施してきた。そして2019年度には、多文化共生と環境問題をテーマとしたマレーシア ペナンへのスタディツアーを企画していた。しかし、新型コロナウイルス蔓延のために直前に中止になってしまった。それを再び実現したいというという願いで始まったのが、本マレーシアスタディツアーである。

そこで、国際交流委員会と実践研究委員会とが協働して、ペナンへのスタディツアーを実現しようと考えた。ペナン島は東洋の真珠と称えられ、中国系、マレー系、インド系の人々の文化が綾のように織りなされる美しい島である。

ペナンでは、国立総合大学であるマレーシア科学大学の言語・リテラシー・翻訳学部において学術交流を行った。マレーシア科学大学は、マレーシアで二番目に創立された大学であり、アジアを中心として留学生が集まる研究型大学である。ペナン日本人学校や難民センター（ロヒンギャ族難民が中心）、海洋や沿岸のエコシステムの研究を進めているマレーシア科学大学海洋・沿岸研究センターを訪問した。世界遺産のジョージタウンやマレーシア最大の仏教寺院である極楽寺の訪問も計画した。

このようなプログラムを通して、多文化共生社会の在り方と方向性、環境問題を探究しようと考えたのである。つまり、SDGsの教育実践推進を念頭においたプログラムを考えた。

### 2. 日程・方面

- ・ 日程 2024年（令和6年）2月12日（月）～16日（金）4泊5日（機内1泊含む）
- ・ 方面 マレーシア ペナン

### 3. 募集人員・参加資格

- ・ 募集人員 15名（先着順）
  - ※ 実際の参加者は、13名であった。
- ・ 参加資格 日本学校教育学会会員
  - ※ 日本学校教育学会の海外スタディツアーは、営利団体のツアーではなく研究団体のツアーである。当然、本学会の会員であることが参加資格になる。
  - しかし、学会会員拡充のねらいもあり定員に充たない場合のみ、会員の推薦があれば参加も可とするとした。13名の参加者のうち1名は非会員である。

#### 4. 費用

基本旅行代金（航空券等）：149,800 円 諸税・燃油サーチャージ込み  
宿泊費：25,800 円  
プログラム費（移動バスチャーター費用、大学施設利用費等）：33,250 円  
総 額：208,850 円

#### 5. 行程表

2月12日（月） MH089 成田発 10:05ーペナン着 20:00 Uホテル泊

2月13日（火）午前 マレーシア科学大学言語・リテラシー・翻訳学部  
午後 マレーシア科学大学海洋・沿岸研究センター

2月14日（水）午前 ペナン日本人学校

※ 当初ミンデン・ハイト小学校訪問（初等教育研究）を計画していた。

英語授業と「イスラーム教育」・「道徳教育」の授業参観を希望していた。だが、初等・中等教育の全学校を管轄する教育省が、訪問日程にかぶる長期休業期間を、ツアー出発の1週間ほど前に発表した。そのためペナン日本人学校で、英会話と現地理解教育の調査をすることにプログラムを変更した。

午後 極楽寺訪問（宗教事情研究）

※ マレーシア最大の仏教寺院である。

夕方 国際交流委員会 国際シンポジウム（オンライン）

2月15日（木）午前 難民センター

ジョージタウン訪問（多文化共生研究）

午後 空港へ

MH1165 ペナン発 20:35 成田着 16日 7:15

※実際には7時間遅れ

#### 6. ホテル

Uホテル ※1泊：7,500円 3泊：22,500円＋レイトチェックアウト 3,300円

No.676 Jalan Sungai Dua, 11700 Penang Malaysia

Tel: +(604) 658-1000

※ マレーシア科学大学正門近くのホテル

#### 7. 協力

マレーシア科学大学 日本文化センター

副田 雅紀 顧問

マレーシア科学大学 言語・リテラシー・翻訳学部

アズリル アリ 副学部長

マレーシア科学大学 海洋・沿岸研究センター

アネット ジャヤ 副所長

ペナン日本人学校

山本 泰 校長

## USM 学術交流①日本側の発表 —歴史教育・キャリア教育・環境教育—

下島泰子（お茶の水女子大学）

### 1. はじめに

ペナンに到着した翌日の午前9時から、マレーシア科学大学において教育に関する学術交流が行われた。日本側の発表者は祐岡武志（阪南大学教授）、山崎保寿（静岡大学名誉教授）、下島泰子（お茶の水女子大学特任准教授）の3名である。発表は英語で行われたが、発表題目（和文）はそれぞれ「地球市民意識を育成する探究的歴史教育の研究—オランダのビッグヒストリー教育に着目して—」「日本におけるキャリア教育の政策動向と実践事例—保護者参加型のキャリア教育とその効果—」「高校生のマレーシア・フィールドワーク—GCEDの枠組みから捉えた環境問題—」である。

### 2. 学術交流

#### 2-1 「ビッグヒストリー」に関する探究的歴史教育



祐岡教授は、2022年度にオランダのアムステルダム大学で研究された「オランダにおけるビッグヒストリー教育」の「市民的資質の育成を目指す探究的歴史教育の教育内容と教育方法」に関する発表を行った。高等学校の歴史教育には教科横断型の探究のプロセスが必要となり、その背景には高等学校教育の質的転換があるという。そのためには高大連携が必要であり、従来の知識偏重型教育ではなく、自ら社会を変革できるための学習が望まれると指摘した。「ビッグヒストリー」とは従来の原始時代からの歴史ではなく、宇宙誕生からを扱う歴史であるという。

#### 2-2 日本におけるキャリア教育

山崎名誉教授は「日本のキャリア教育」に関する発表を行った。最初に「キャリア教育」は世界各国で小学校から高校まで行われていることを示した（写真左）。次に「日本におけるキャリア教育の政策動向」を示した（写真右）。実践事例としては、「保護者参加型」のキャリア教育の効果について指摘した。



## 2-3 高校生のマレーシア・フィールドワーク



High School Students' Fieldwork in Malaysia:  
Environmental Issues with a Focus on the GCED Framework

Yasuko SHIMOJIMA  
Institute for Competency Development  
Ochanomizu University

下島（筆者）は2020年に終了した高等学校におけるグローバル人材育成プログラムであるスーパーグローバルハイスクール（SGH）研究指定校のマレーシア・フィールドワークについて発表を行った。指定校のテーマは「アジアにおける環境、観光、多文化共生、教育」であり、生徒の調査から、ペナンの漁業と日本の成田空港問題における環境問題の共通性を取り上げた。グローバル市民教育の枠組みを紹介し、その中で環境問題解決に資する「倫理的責任」の育成について検討した。

## 3. おわりに

各発表後にはUSMの先生方と日本側との質疑応答と討論が活発に行われた。三者の発表とも、日本の教育政策や実践を背景としながらも海外の動向を視野に入れており、テーマは歴史教育、キャリア教育、総合的な探究の時間の環境教育、と教育の多様な様相の提示や示唆となった。今後の筆者個人の課題としては、マレーシアと日本の比較をすることの意義を検討してゆきたい。

### [参考文献]

祐岡武志(2024)「市民的資質の育成を目指す探究的歴史教育研究に関する一考察—オランダのビッグヒストリー教育に着目して—」未発表原稿



## USM 学術交流②マレーシア側の発表 —マレーシアの教育（道德教育、難民）—

山崎保寿（静岡大学名誉教授）

### 1. はじめに

2月13日午前における学術交流では、日本側の発表に続いてマレーシア側からの報告が行われた。報告者は、マレーシア科学大学（USM）日本文化センター顧問の副田雅紀先生（写真1、2）である。



写真1. マレーシアの教育事情を報告する副田先生



写真2. 報告を熱心に聞く参加者

副田先生は、名古屋市の中学校の英語教員、教育センター指導主事、指導室指導主事、神岡中学校校長を歴任され、ペナンの中等教育の学校とも交流されてきた。校長時に日本語講師の資格を取得され、退職後にマレーシア科学大学の言語・リテラシー・翻訳学部の日本語講師として勤務された。その後、日本文化センター所長を経て、現在は日本文化センター顧問を務められている。日・マ友好の功績によって、日本政府外務省から表彰、続いて瑞宝双光章を受章された。（副田先生の経歴については、中山博夫教授の情報による。）

以下の内容と図表は、副田先生の報告および提供された資料に基づくものである。

### 2. 学術交流—マレーシアの教育（道德教育、難民）—

#### 2-1 マレーシアの歴史と日本

日本は、1868年に明治政府が成立したが、ペナン島には1871年に日本人男性10人が居住していた記録がある（表1）。19世紀のジョージタウン・チントラ通りには日本人街が見られた。

マレー半島は、第二次世界大戦時に日本の占領下にあったが、戦後イギリスの植民地となり、1957年8月に独立してマラヤ連邦が成立した。1963年9月に、シンガポールおよびボルネオ島のサバ、サラワクがマラヤ連邦に加わり、マレーシアが成立した。1965年8月には、シンガポールがマレーシアより分離独立した。

1970年に、ルク・ネガラ（国家原則）、1988年に「国家教育原理」が策定された。これらは、現在までマレーシアにおける学校教育カリキュラムの根幹をなしている。

表1. ペナン初期の日本人推数

年	男 Male	女 Female	合計
1871	10	-	10
1881	4	-	4
1891	1	20	21
1901	26	212	238
1911	266	-	266
1921	118	122	240
1931	110	123	233

(Leng, 1978, p. 165)

また、表 2 に示したように、マレーシアでは日本語教育も盛んであり、日本語学習者数は約 4 万人で、世界第 9 位である。

表 2. マレーシアにおける日本語教育  
日本語学習者数：約4万人（世界第9位）

教育機関の種別	人数	割合
初等教育	45	0.1%
中等教育	19,417	49.5%
高等教育	14,720	37.5%
学校教育以外	5,065	12.9%
合計	39,247	100%

## 2-2 マレーシアの学校教育制度

マレーシアは多民族国家であり、単純な人口比では、マレー系（約 65%）、華人系（約 24%）、インド系（約 8%）となっている。多様な民族構成とイギリスの植民地であったことが学校教育制度にも影響している。図 1 は、マレーシアの学校教育制度を示しており、基本的に 6-3-2-2-3 制となっている。特徴的なことは、国民学校と前期中等学校の終了時に受ける PBS（School Based Assessment：学校による成績評価）、後期中等学校の卒業試験 SPM（Sijil Pelajaran Malaysia：マレーシア教育修了証明試験）、大学進学のための STPM（Sijil Tinggi Persekolahan Malaysia：マレーシア全国統一試験）が実施されていることである。これらの試験制度により、多様な学校教育制度の質を確保するとともに、生徒の進路選択・進路決定につながっている。

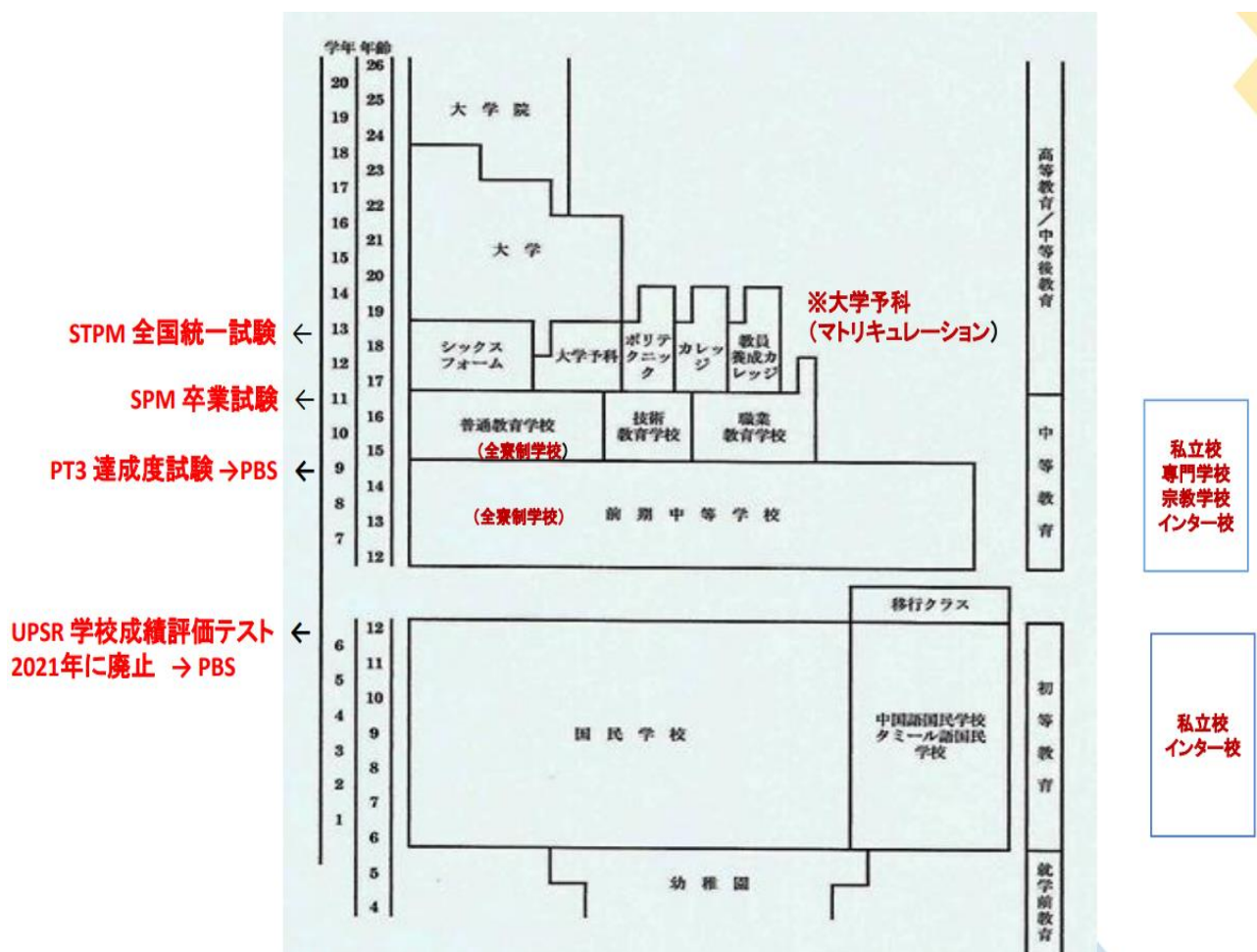


図 1. マレーシアの学校教育制度

## 2-3 マレーシアの道徳教育

マレーシアの道徳教育は、宗教の実情を反映して、イスラーム教徒対象のイスラーム教育と非イスラーム教徒対象の道徳教育とが行われている。表2から表4は、就学前のカリキュラムから中等教育前期カリキュラムまでを示したものである。中等教育後期カリキュラムも含めてマレーシアでは道徳教育が重視されており、Pendidikan Moral (マレー語で「道徳研究」の意) がSPMの主要科目の一つとなっている。図2は、Pendidikan Moralの教科書(表紙)である。

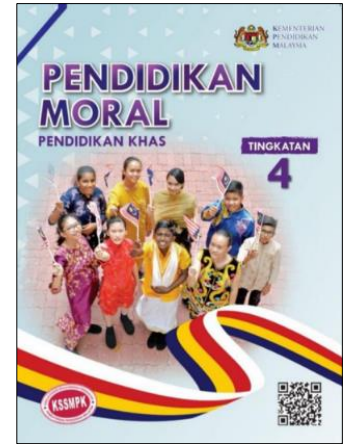


図2. Pendidikan Moralの教科書

表3. 就学前のカリキュラム内容

内容	到達目標
公民教育	「ルクヌガラ」(マレーシアの国是)を知り、国家の法律に従い、愛国心を養うこと
イスラーム教育(イスラーム教徒対象) 道徳・精神教育(非イスラーム教徒対象)	神の信仰、協力および合理性を含む価値観を身につけること
マレー語(マレー語幼稚園) (非マレー語幼稚園)	マレー語によるコミュニケーション技術 マレー語による会話
英語	簡単な指示や役割の遂行を含む日常的なヒアリングと会話技能
体育	健康、安全および快適な環境における子供の成長と発育
社会・情緒育成	多様な知能の理論と情緒的知能の概念を含め、子供に自尊心を植えつけること
知育育成	観察、予測、推論および分類の技能
創造的・美的能力育成	美術、自然および国家遺産を尊ぶこと

出所：海外職業訓練協会、海外人材養成データベース「マレーシア」 2002

表4. 初等教育カリキュラム

分野	要素	レベルⅠ (1年生-3年生)	レベルⅡ (4年生-6年生)
コミュニケーション	基礎的能力	マレーシア語 中国語 タミール語 英語 算数	マレーシア語 中国語 タミール語 英語 算数
人間環境	精神、価値観、態度 人間と環境	イスラーム教育 道徳教育	イスラーム教育 道徳教育 科学 地域学習
自己開発	技術家庭 美術、レクリエーション 課外活動	音楽 美術 保健体育	技術家庭 音楽 美術 保健体育

(Education in Malaysia より作成)

また、マレーシアの道德教育でシラバスの中核をなしているのは、36 の道德的価値観である。それらの価値観は、次の7つの分野に分類されており、教科書および学習内容に反映されている。①自己開発(12 価値観)、②家族(4 価値観)、③自然(4 価値観)、④愛国心(3 価値観)、⑤人権(5 価値観)、⑥民主主義(5 価値観)、⑦平和と調和(3 価値観)である。

表 5. 中等教育前期カリキュラム

必修教科	追加教科
マレー語、英語 イスラム教育（イスラム教徒対象）/ 道德教育（非イスラム教徒対象）、 数学、理科、歴史、保健体育、 美術、生活技術	中国語 タミル語 アラビア語

マレーシア日本人商工会議所『マレーシアハンドブック 2001』2002

### 2-4 マレーシアにおける難民

マレーシア UNHCR（United Nations High Commissioner for Refugees：国連難民高等弁務官事務所）によれば、登録された難民はミャンマーからが大半を占めており、2023 年の状況は表 6 のようになっている。

ペナンでは、難民の子どもへの教育と健康を支援する NGO として、Selfless Together などが活動している。

表 6. マレーシアにおける難民（UNHCR2023）

Country	Number of refugees	
Myanmar	Rohingyas	107,670
	Chins	24,910
	Other ethnics	29,860
	Total	162,440
Pakistanis		6,350
Yemenis		3,220
Afgans		2,900
Somalis		2,760
Syrians		2,750
Sri lankans		1,260
Iraqis		670
Palestinians & others		610
<b>TOTAL</b>		<b>182,960</b>

### 3. おわりに

以上、副田先生から、マレーシアの歴史、学校教育制度、道德教育、難民の状況等について詳細な報告がなされた。マレーシアでは、イギリスの学校教育制度を基幹としつつ多民族国家として歴史的に多様な学校教育制度が成立しており、学校教育の各段階で教育の成果と生徒の到達度を包括的かつ統一的に判断し、就職や大学等への進学に影響する試験制度が行われている。また、宗教の実情を考慮した道德教育が施され、カリキュラムの中で道德教育が重視されている。こうした多民族国家マレーシアの実情について、学校教育の制度と内容を視点としてより深く理解できたことは、今回のスタディツアーの大きな収穫であった。

最後に、副田雅紀先生には、今回のスタディツアーに際して、USM 側との調整をはじめ、現地ツアーに終始同行していただき、日程、移動等に関して多大なご配慮をいただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

マレーシア科学大学 海洋・沿岸研究センター  
—CEMACS : Centre for Marine and Coastal Studies—

神永 典郎 (白百合女子大学)

1. はじめに

2024年2月13日午後から、マレーシア科学大学 (USM) 海洋・沿岸研究センター (CEMACS : Centre for Marine & Coastal Studies) を訪問した。

海洋・沿岸研究センターは、ペナン島北西部のペナン国立公園内のテルク・アリン (Teluk Aling) という小さな湾になった場所に位置している。山を越えて行く方法もあるが、通常は観光用の小型ボートで向かうほうが便利で、我々も2隻に分乗して研究センターに向かい、出航して10分ほどでCEMACSに着くことができた。船にも乗れると皆楽しみにしていたが、この日は波が高く、行きのボートは、ライフジャケットを着た私たちに海水がかかるほど大きく揺れ、ちょっとしたスリルを味わうことになった。

ペナン島はマラッカ海峡に面しており、この場所は国立公園にもなっていて、以前は砂浜海岸で泳ぐこともできたそうだが、現在は、海水汚染が進み、大腸菌が遊泳に適する数値の十倍以上あって泳げないとのこと。乗船した海岸にもプラスチック容器などのゴミが漂着しており、近年はその数が非常に多くなり、海岸に流れ着くゴミ問題が問題になっているそうである。

そのような場所に沿岸生態系等の環境と生物を研究する施設としてCEMACSが置かれていることは、ある意味で象徴的なことだなと感じながら、研究センターの建物の2階にある会議室に入り、施設の概要や取組についての説明を受けることになった。



## 2. マレーシア科学大学 海洋・沿岸研究センターの見学

### (1) 研究センターの概要と取組

最初にマレーシア科学大学の海洋・沿岸研究センターの副所長であるアネッタ教授から、センターの概要と取組について説明を受けた。

研究センターでは、主に海洋学と沿岸生態系の研究と大学院教育を行っており、現在、生物多様性と海洋生態系の保全をはじめ、海岸森林生態系、海洋養殖および海洋哺乳類の生態（ジュゴンとイルカ）の保全に焦点をあてて研究を進めている。スライドを使っての説明では、研究センターは、研究、教育、地域、貢献、幸福を5つの柱として、近年の新しい取組としてSDG'に重点を置いて進めている取組についての紹介があった。

まず、研究の面では、グリーン海洋養殖（Green mariculture）である。これは、持続可能な開発を目指すグリーン経済の一つとして、海洋資源の持続可能性と生態系の保全の両立を目指した取組で、現在グリーン海洋養殖として、特にナマコの養殖に取り組んでいるという。次に、生物多様性の研究とマレーシア全土の海洋資料収集である。これは、将来のための研究として行っていて、海洋環境についてマレーシア半島のペナンからカリマンタン島のクタキナバルまで全土を航海して調査しており、軟体動物、サンゴ礁、棘皮動物など、マレーシア全土の海洋資料の収集も行っているということであった。その他にも、サンゴ礁と海洋生態系の持続可能性について、海洋の酸性化や気候変動と汚染の問題、ムカヘッド（MUKA HEAD）の庭園と芸術などについても取り組んでいるということであった。

そして、大気、海洋、森林等、海洋環境について長期にわたる監視、ブルーエコノミー（blue economy）の取組である。ブルーエコノミーとは、海を守りながら経済や社会全体をサステナブルに発展させることを前提とした海洋産業のことで、海洋産業とは、漁業や養殖業などの水産業や海運・造船、海洋観光などを指している。言い換えると、海洋資源の持続可能な利用を通じた経済成長の実現を図る活動で、海の生態系システムの健康を含む海上の経済セクターの発展に加え、人々のより良い生活を目指すものである。その他に、水産養殖のSEES HUB（資源管理）、地域のためのクラゲの状況の監視や日本を含む国際的な協力による研究、2019年のペナンでの魚の大量死事件後には、ペナン等ミドルバンク区域における海洋保護区の設定などを行ってきたそうである。



教育の面では、毎年夏に、海洋プラスチックごみについて考える研修講座を開催しているとのこと。アネッティ副所長の説明では、海洋プラスチックごみを「除去するため」の取組ではなく「コントロール」するためという言葉での説明があったが、プラスチックごみによる海洋汚染の問題はとても難しい問題だということを改めて感じるようになった。

## (2) 研究センターの施設の見学

説明を受けた後、所員の方に研究センターの施設を案内してもらい、施設の見学をした。

### ① 海洋生物の養殖の研究棟

最初に、海洋生物の繁殖のための養殖施設を見学した。ここは、グリーン海洋養殖を目指し、ブルーエコノミーにつながる海洋生物の養殖方法の研究を行っている。海ぶどう (sea grape)、ナマコ (sea cucumber)、ヒトデ (sea star)、バイ貝 (blood cockle)、アアビ (Abalone) などが養殖されていた。これらは価格が高く、養殖に携わる漁民も経済的に収入を得やすくなるという。



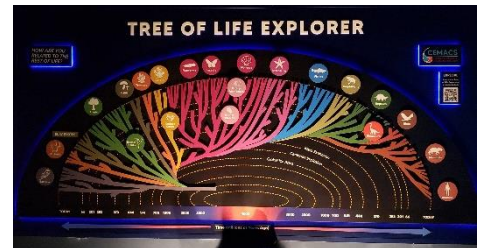
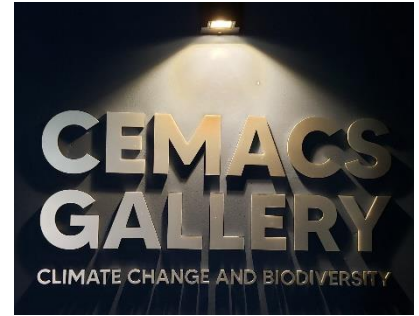
### ② サンゴ等の標本展示館

研究センター3階には、マレーシア全土で収集されたサンゴや、ヒトデ、カニなどの標本展示館も設けられており、所員の方が熱心に説明をしてくださった。



### ③ 海洋生物の実験室と展示室

実験室には、高度な設備が整っており、講座のプログラムは、この部屋を使っても行われるとのこと。その先には、マラッカ海洋や南シナ海の海洋を紹介する展示室が設けられていた。展示室には、海洋・沿岸研究センターの研究全体がわかるように多様な展示物が集められており、センサーとプレゼンターを組み合わせることでバーチャルに海中の様子を体験できるコーナーも設けられていて、研究センターを荒天時に訪問しても海洋生物や海洋養殖などについて十分知ることができるように十分整備された展示館となっている施設であった。



### 3. おわりに

この海洋・沿岸研究センターに集められた研究や情報は、近年は SDGs に関わった研究や活動が外国の研究機関とも連携して数多くなされており、特に、海洋環境問題について考えたり教材を作成したりしていく上で豊富な情報を有している施設であると感じた。

また、このような施設とつながりをもち協力を得て、開発されたアクティビティを取り入れたり、周辺のフィールドワークを組み合わせたりしていけば、研究センターを活用して研修する興味深いプログラムを企画することができるのではないかと考えた。

- [参考]
- CEMACS の Web ページ <https://cemacs.usm.my/>
  - CEMACS の Facebook <https://www.facebook.com/cemacsUSM>
  - CEMACS の Instagram [https://www.instagram.com/cemacs\\_usm/](https://www.instagram.com/cemacs_usm/)





# ペナン日本人学校の視察研修 I

## －日本人学校の概要・現地理解教育－

齋藤 道子（目白大学）

### 1. 21世紀のVUCA時代を生きる

21世紀のVUCA時代（Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity＝変動・不確実・複雑・曖昧）を生きる上で、今後子供達はどのような資質・能力を備える必要があるのか。この世界的な課題について30数カ国と共に協議・研究を重ねてきたOECD（経済協力開発機構）は、2019年、OECD Future of Education and Skills 2030が開発したラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030を公表した。その目標は「個及び社会のWell-Being」であり、そこでは、行為主体者である学習者が「世界における自己」という感覚の下に、よりよい未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー（新たな価値を創造・対立やジレンマへの対処・責任ある行動）を備え、個及び協働エージェンシーを発揮しながら新たな未来を拓いていく姿が示された。これを踏まえ、我が国では、2021年に「個別最適化の学び」と「協働的な学び」をコンセプトとする「令和の日本型学校教育」（文部科学省）、2023年に「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根ざしたウエルビーイングの向上」（中教審閣議決定）をコンセプトとする「第4期教育振興計画」を公示したが、こうした施策を実際の教育現場においてどのように具現化させていくのかは、今後の課題である。

多民族国家であるマレーシアは、様々な人種・言語・宗教・文化等が混在する多文化共生社会であり、その姿は、急速なグローバル化の進展に伴う近い未来の日本の姿であると受け止める。この意味で、今回のマレーシア視察研修は、今後の日本の教育を考える上で大きな示唆を得る貴重な機会であった。

当初、現地校を視察する予定だったがコロナにより中止となったため、ペナン日本人学校の多大なご理解と心温かなご協力により日本人学校の視察研修となった。以下、日本人学校の概要を基に、I 現地理解教育・II 英語教育について報告する。

### 2. 日時・場所・内容

#### 2-1 日時・場所

- ・2024年2月14日（水）9時から11時30分
- ・ペナン日本人学校（写真1）

#### 2-2 視察研修内容

##### <学校の概要>

- ◆設置者（ペナン日本人会）・設立（1974年〔昭和49〕10月5日）・設立主体（学校運営委員会）※日本国文部省・外務省の許可を得て、マレーシア国連邦教育法に従い、ペナン州政府教育局の認可により設立された私立学校
- ◆児童生徒数（2023年5月現在） 総計127人（小学校83人・中学校44人）
  - 小1（9人）・小2（13人）・小3（14人）・小4（23人）・小5（15人）・小6（9人）
  - 中1（21人）・中2（13人）・中3（10人）



（写真1）

◆基本方針：義務教育に関する日本の制度にできるだけ準拠することに努めるが、日本の義務教育制度が自動的に本学校に適用されるものではない。

（日本と同等の教育を海外で行うことを目指し、目指す学びの到達点は「自己認識」）

◆財政的基礎：受益者負担を建前とするが、不足補充に国費の支出が認められる他、公募による寄付金の支援等を含めて財政の基礎を構成する。

◆学校運営：運営については主に運営委員会が、教育については学校長が責任を負う。【構成：日本人会（3名）、総領事（1名）、父母会（2名）、PTA（1名）・管理職（2名）】

◆教員：教員は2～3年サイクルで日本に異動する。

### <視察の主な内容>

- ①学校長の挨拶及び本学校の概要と学校経営方針の説明・質疑応答
- ②小学校6年生の英語の授業及びその他の学級の視察・休み時間の視察
- ③英語教育についての授業者による説明・質疑応答

### <視察の様子>

#### (1)環境面

\*学校の周りには、古い家と近代的な高層の建物が混在しており（写真2）、時折近くを流れる川から生活排水の匂いが、風とともに教室に入ってくる。



(写真2)

\*借用している校舎は、中庭を挟んだ3階建てで古く（写真3）、小・中学生が共に生活している。

教室は、日本よりやや狭いが子供の数が少ないためゆったり感がある。



(写真3)

\*各学級の掲示物がそれぞれに工夫され、子供達の日頃の学びや生活の様子をうかがい知ることができる（写真4）。また、図書室は本の冊数は少ないが、きれいに整備され、貸出も行われている。



(写真4)

\*子供たちは一人一台タブレットを持っている。教材やプレゼン等の画面共有は、テレビまたはプロジェクターで黒板に映し出して学習している。

\*トイレは、一部洋式トイレが設置してあるが、和式トイレに似た現地のものもあり、使用後は貯水槽の鎖を引いて洗浄している。

\*気温が高いためプールが設置されており、どの学年も週に1回水泳の授業がある。プールのない現地の学校が、時折日本人学校のプールを借りて水泳の指導をしている。

(2)一般的な教育内容

\*日本の学校教育の教育課程に沿った内容で教育活動が行われている(図1)。学校の方針で水曜日の1校時に全学級が「道徳科」の授業を実施している。その理由は、先生方がいろいろな学級で道徳科の授業を行うことが可能となり、人間関係や道徳科の学習の場を広げることにある。

(3)特質的な教育内容：I 現地理解教育

「多文化理解教育推進計画」の作成と実践

<目的>

- 「自分たちと異なる価値観を認める」—優しさや思いやり・よりよい自分—
- 「進んでコミュニケーションを図ろうとする」—ツールとしての外国語の学習—
- 「日本の文化を理解する」—双方向の交流—

<交流会の実践>

- ①学校交流会：学年部毎に立案・隔年での受け入れと訪問・英語での活動・総合的な学習の時間や学級活動やESL(English Speaking Lesson)等を通して実施
- ②中学部学校交流会：SMK Bukit Jambul (Sekolah Menengah Kebangsaan Bukit Jambul) =国立中等教育ブキジャングル学校(中1から高2が学ぶ中高一貫校・全校生徒の内の約70名が日本語を学ぶ)との音楽・舞踊・相互文化の交流会の実施
- ③その他の交流会：マレー語講座・民族音楽鑑賞会・日馬親善盆踊り大会・ボランティア活動(ユニクロと提携し古着の活用)・アートコンテスト(ジャラム・バティック等)・社会科見学(消防署や警察署等)・校外学習等の実施

令和5年度 日課表・週課程表・下校バス時刻表

月	火	水	木	金
8:00~8:15	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
8:15~8:25	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
8:25~8:35	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
8:35~8:50	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
8:50~9:00	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
9:00~9:20	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
9:20~9:30	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
9:30~9:45	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
9:45~10:00	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
10:00~10:15	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
10:15~10:30	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
10:30~10:45	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
10:45~11:00	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
11:00~11:15	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
11:15~11:30	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
11:30~11:45	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
11:45~12:00	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
12:00~12:15	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
12:15~12:30	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
12:30~12:45	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
12:45~13:00	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
13:00~13:15	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
13:15~13:30	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
13:30~13:45	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
13:45~14:00	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
14:00~14:15	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
14:15~14:30	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
14:30~14:45	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
14:45~15:00	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
15:00~15:15	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
15:15~15:30	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
15:30~15:45	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
15:45~16:00	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
16:00~16:15	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
16:15~16:30	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
16:30~16:45	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝
16:45~17:00	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝	朝の礼拝

(図1)

3. おわりに

多民族国家のペナンは、マレー系・中国系・インド系・その他の民族等からなる多文化共生社会であり、ブミプトラ政策(マレー人優遇政策)により公用語はマレー語であるが、人々は複数の言語を用いて生活している。また、宗教も多様であり、モスクや寺院等が点在しているが、互いにそれらを認め合い尊重し合って生活している。こうした環境の中で日本人学校の子供達が、正に「世界の中の自己」を常に感じ、自覚しながら日々様々なことを体験し、多様性や包摂性という共生社会に求められる資質・能力を無意識的に身に備えていく姿を捉えることができた。日頃、日本を基軸として物事を考え生活している日本の子供達が、もっと世界に目を向けて「世界の中の自己」を自覚し、「よりよい未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー」を備えていく必要性を改めて感じる事ができた。

## ペナン日本人学校の視察研修Ⅱ

### －英語教育－

澤井 史郎（大塚イスラミアスクール校長）

#### 1. 多文化共生社会における英語教育の意義

多文化共生社会では、コミュニケーションを図る上で共通言語の存在が重要となる。マレーシアの人口は年々増加し、平均年齢が約 29 歳と若く、ペナンも振興国家としての活気に満ち、母国語に加えて英語を介して意志の疎通を図る姿が多々見られた。ペナンの多文化共生社会を支える上で、共通言語としての英語が果たす役割は大きい。グローバル化の急速な進展により日本も多民族社会へと移行している今、英語教育を言語能力の習得のみならず、多様な人々や文化を尊重しつつ共生社会を支える重要な役割を果たすものとして再認識する必要があると思われた。

#### 2. 日本人学校での英語教育（小学校 6 年生）の授業視察

英語の授業視察後、担任から本時の授業についての説明を受けた。英語教育は、週に 2 回担任とネイティブの ALT（Assistant Language Teacher）によって行われている。本時の導入では、子供達がリラックスして授業で話せるよう Expressing Activity として「消しゴム Talk」や「Small Talk」等を取り入れ、自分の好きなこと等を話していた（写真 5）。また、ペアワークやグループワークを



（写真 5）

適宜活用して友達と会話する場面を設けていた。終末では、「Reflection Talk」を大切に、

Can you talk well?・Do you have something to talk more?等の質問に沿って各自タブレットに書き入れていた。日本では、授業の主たるフレーズを話しそれに答えるというパターン化した発話活動が多いが、本授業では、子供達が自分の伝えたいことや聞きたいことを自由に話す会話が成立していた。多文化共生社会の中での生活が、英語に対する意識を高め、授業への意欲や主体的な取組に繋がっている姿を捉えることができた。

#### 3. おわりに

勤務しているイスラーム学校には、13 カ国の子供達が在籍しており、その 90%以上が日本生まれで外国籍をもっている。授業は共通言語としての英語で行われるが、休み時間は日本語で話し、家に帰れば母国語で話すというトリプル・リンガルの子供達である。彼らを繋ぐのはコーランの教えであり、自国の文化に誇りを持ちながら日本の文化や慣習の中で生活している。今回のペナンの日本人学校の視察研修を通して、今後、日本の英語教育は、世界や多文化共生社会をより意識して、21 世紀を創る担い手である子供達の育成を図っていく必要があると感じた。

# 極楽寺 (KEK LOK SI TEMPLE)

西川寿美 (昭和女子大学)

## 1 はじめに

マレーシアは、人口約 3,350 万人、マレー系約 70% (先住民 12%を含む)、中華系約 23%、インド系約 7%からなる多民族国家である。今回訪問したペナン島は、マレー半島西方、マラッカ海峡に位置する島である。現在の人口は約 79 万 1200 人 (2020 年) で、中華系人口が多く、次いでマレー系、インド系という構成になっている。したがって、宗教も多様性に富んでいる。ユネスコ世界遺産に登録されている州都ジョージタウンは、古くから交易の拠点として栄えた港町であるが、町の中心部の狭いエリアに 19 世紀に建造された中華系寺院、イスラームモスク、ヒンドゥー寺院、英国教会といった歴史的建造物を見ることができ、多民族都市の特徴が色濃く残っていた。今回の研修では二日目の午後、島の中央部に位置する大乘仏教寺院、極楽寺を訪問した。本稿では極楽寺について報告する。

## 2 極楽寺の歴史

極楽寺は、19 世紀末から 20 年以上の月日を費やして建造された 130 年以上の歴史をもつ東南アジア最大級の仏教寺院である。中国福州から 1885 年にペナンに渡ってきた妙蓮法師 (Venerable Beow Lean) により、当時の客家系華人実業家らの寄進を得て建設が始まったとされる。風水によってジョージタウン郊外の丘が建設場所として選ばれた。鶴が羽を広げた形に似ていることから鶴山 (Crane Hill) と呼ばれている。今でも極楽寺からは、ジョージタウンの街と海を遮るものなく見下ろすことができ、心地よい風を感じることができた。

大士殿 (1891 年)、天王殿 (1895 年)、大雄寶殿 (1896 年)、圓通寶殿 (1898 年)、藏經樓 (1898 年)、鍾鼓樓 (1901 年) の初期の建造物が完成した 1904 年に妙蓮法師は帰国し、表敬訪問した清の光緒帝 (Emperor Kuang Xi) から仏陀の経文や直筆の経典等を贈られた。それらの歴史的遺物は現在も寺に保管されている。その後、4 人の総院長 (Chief Abbot) がさらに極楽寺の拡充発展に努め、現在は初のペナン生まれの Venerable Jit Heng が 6 代目総院長・住職を務めている。極楽寺は中国の近代史の影響を受けながらも 130 年の間、仏教寺院として発展を続け、華人系住民の仏教文化の中心として。またペナンのユニークな観光地として、その役割を果たしている。

## 3 極楽寺の建造物・仏像

「極楽寺」という名称が示すように、広大な敷地には多くのきらびやかな建造物、庭園、彫像、池などが配置されている。以下、特色のある三つの建造物を一観光客としての雑感とともに紹介する。

### 【パゴダ（萬仏寶塔）】

七層からなる仏塔で、1913年に建造された。仏教の三つの様式を合体させた不思議な外観の塔であるが、上層はミャンマー式、中層階はタイ式、下層階は中国式と言われている。パゴダの内部には狭い階段があり、階を上るごとに異なる趣の仏像が設置されている。仏教伝播の跡を辿るようで興味深い。残念ながら中国より東方の仏像は設置されていなかった。最上階のテラスからは極楽寺の絶景を眺めることができた。



### 【天王殿の四天王】

天王殿の四体の天王像。黄金色に輝く仏像のきらびやかさ目を奪われた。写真は正面右手に設置されている二体。左側は持国天王で琵琶を、右側は増長天王で宝剣をもっている。四天王は中央に設置された弥勒菩薩を守る守護神である。四天王像は仏教寺院でよく目にすることがある。色はそれぞれ決まっているようで、説明書には持国王は白色、増長王は青色と書かれていたが、どちらも全身見事金色に輝やっていた。



### 【観音聖像】

高さ 30 メートル超の巨大な青銅の観音像。極楽寺の敷地の頂上に立っているため、ひときわ目を引く。現在のものは 2002 年に建て替えられ、公開当初は全身が現れていたが、現在は八角塔で囲われている。訪問が春節時期であったため、ライトアップのための赤い提灯がかけられていた。現代的な美しい姿の観音像で、極楽寺から下界の人々の安寧を見守っているように感じた。



## 4 おわりに

人が新しい土地に住み始める時、宗教を通じたコミュニティの役割は大きい。極楽寺も華人系住民にとってこういった機能を果たしてきたと考えられる。訪問が中国の春節の時期であったため、熱心に祈願する人々の姿が印象に残った。ペナン島では多文化がバランスをとって共存しているように見えたが、人々の関心や相互理解の程度はどうなのか、その実態についてさらに理解を深めたいと考えた。

### [参考文献]

Kek Lok Si Temple (2004) *A Journey of Insightful Discovery at Kek Lok Si Temple*. 立騰出版集團

## 第2回国際交流委員会ミニ国際交流シンポジウム（マレーシア）の活動内容と活動の成果

林 尚示（東京学芸大学）

### 1. はじめに—目的と背景

第2回国際交流委員会ミニ国際交流シンポジウム（マレーシア）では、学校教育の様々な分野の専門家や学生が参加し、講演を通じて、国際的な視点から課題や解決策を検討することを目的とする。そして、参加者同士の交流やネットワーキングの機会を提供するものである。ミニ国際交流シンポジウムは、多様性を尊重する平和な世界の実現に向けた取り組みの一環である。

ミニ国際交流シンポジウムは年2回の開催で、前委員長からの活動の積み重ねにより、活動が会員の皆様に広く認知されるに至り、毎年各国からシンポジストにご登壇いただけるようになってきている。毎年、新たなシンポジウムの企画が生まれ、人や組織のネットワークが繋がり、会員内外の皆様において持続的な交流や協働が形を成しつつある。この活動の促進や発展も目的である。

### 2. 方法

2024年2月14日（水）16:00-17:30（マレーシア時間）にミニ国際交流シンポジウムを開催した。マレーシアでのミニ国際交流シンポジウムはオンラインと対面でのハイブリッド開催とした。日本学校教育学会のマレーシアスタディツアーとのコラボレーション企画での実施とした。マレーシアを拠点として、日本、中国、台湾、ベトナムをオンラインでつないで実施した。

実施体制は国際交流委員会により組織された。具体的には、委員長林尚示（東京学芸大学）、副委員長林明煌（嘉義大学・台湾）、委員は小嶋祐伺郎（金沢学院大学）、牛志奎（馬鞍山師範高等専科学校・中国）、元笑予（帝京平成大学）、下島泰子（お茶の水女子大学）、眞壁玲子（文京学院大学）、委員兼幹事は伊勢祐美子（世田谷区立若林小学校）、小川真理絵（東京学芸大学大学院）、周勝男（厦門大学嘉庚学院・中国）である。

役割分担は講演の部の司会は林尚示、質疑の部の司会 は元、Zoom運営 は下島、お礼の言葉 は林明煌、参加者把握と対応 は眞壁、事前の準備は委員全員の体制で実施した。元委員は日本からのオンライン参加、牛委員は中国からのオンライン参加、林明煌副委員長は台湾からのオンライン参加であった。

### 3. 結果

計画のとおり、対面及びオンラインで実施できた。オンラインや会場での参加者は合計でおよそ30名であった。ミニ国際交流シンポジウムの内容は次のとおりである。

報告者1 報告内容：帝京平成大学における国際交流について

中村 昌彦 帝京平成大学経営学科（日本から登壇）

小野寺妙子 帝京平成大学経営学科（日本から登壇）

元 笑予 帝京平成大学経営学科（日本から登壇）

- 報告者2 報告内容：留学生セミナーと日本人学生セミナーとの合同授業について  
任 李钰（にん りぎょく）帝京平成大学経営学科2年生（中国から登壇）
- 報告者3 報告内容：他学科との国際交流活動について  
レディレ・ジャン 帝京平成大学経営学科2年生（ベトナムから登壇）
- 報告者4 報告内容：学園祭（留学生企画）について  
和 樹豪（わ じゅごう）帝京平成大学経営学科3年生(中国から登壇)
- 報告者5 報告内容：マレーシアスタディツアーの経過報告  
眞壁 玲子 文京学院大学（マレーシアから登壇）
- 閉会挨拶 林 明煌 台湾・嘉義大学（台湾から登壇）

これらの発表から、帝京平成大学における国際交流について、学生支援窓口の活動、日本語カフェ、就職支援、留学生と日本人学生との交流授業、学園祭（留学生企画）での活動や、その他さまざまな活動の事例が紹介された。また、マレーシアからは、スタディツアーの活動内容について、写真等を活用して紹介され、参加者間で共有することもできた。



写真 マレーシアでのシンポジウム会場の様子 左後ろからと右前から

#### 4. おわりに—考察

今回はマレーシア、日本、中国、台湾、ベトナムをつないでの国際的なシンポジウムとなった。今後も日本学校教育学会ミニ国際交流シンポジウムが学校教育についての新しい価値の創造を可能にする画期的な場として、会員の間で広く共有され、持続的な協働がここから広がり、日本内外で実践されていくことが期待できる。

#### 謝辞

日本学校教育学会ミニ国際交流シンポジウムにご参加いただきました日本国内および海外の関係者の皆様に、心からお礼を申し上げます。



## 第2回国際交流委員会ミニ国際交流シンポジウム ーマレーシアスタディツアーの経過報告を中心にー

眞壁 玲子 (文京学院大学)

### 1. はじめに ミニ国際交流シンポジウムの意義

ミニ国際交流シンポジウムは毎年2回、多様性を尊重する平和な世界の実現に向けた取り組みの一環として開催している。また、国際交流委員会では、本学会の一層の国際化・グローバル化に向け、東アジアを中心にこれまで8回のスタディツアーを実施している。今回は、マレーシアスタディツアーとミニ国際交流シンポジウムがコラボしての実施となった。ミニ国際交流シンポジウムの目的は、学校教育の様々な分野の専門家や学生が講演を通じて、国際的な視点から課題や解決策を検討すると共に、参加者同士の交流やネットワーキングの機会を提供することである。

### 2. 日時・場所・内容

#### 2-1 日時・場所

2024年(令和6年)2月14日(水) マレーシア時間 16時から17時30分

マレーシア Uホテル 会議室における対面とZoomによるオンラインを合わせて開催

#### 2-2 内容

①中村 昌彦、小野寺妙子、元 笑予(帝京平成大学経営学科 日本から登壇)

「帝京平成大学における国際交流について」



②任 李钰 (にん りぎょく) (帝京平成大学経営学科2年生

中国から登壇)

「留学生セミナーと日本人学生セミナーとの合同授業について」



③レディレ・ジャン (帝京平成大学経営学科2年生 ベトナムから登壇) 「他学

科との国際交流活動について」



④和 樹豪 (わ じゅごう)

(帝京平成大学経営学科3年生 中国から登壇)

「学園祭(留学生企画)について」



⑤眞壁 玲子（文京学院大学 マレーシアから登壇）

「マレーシアスタディツアーの経過報告」

2月12日10時成田発 ペナン着 20:00（日本時間21時）



成田空港から約7時間でクアランプール。夕陽の中、1時間でペナン空港へ。

2月13日（火）午前

マレーシア科学大学の言語・リテラシー・翻訳学部において学术交流



①祐岡武志（阪南大学教授）

「地球市民意識を育成する探究的歴史教育の研究  
ーオランダのビッグヒストリー教育に着目してー」



②山崎保寿（静岡大学名誉教授）

「日本におけるキャリア教育の政策動向と実践事例  
ー保護者参加型のキャリア教育とその効果ー」



③下島泰子（お茶の水大学特任准教授）

「環境、観光、多文化共生、教育：  
高校生のマレーシア・フィールドワーク」

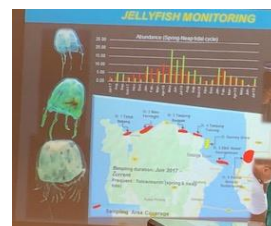


④副田雅紀（KUFUS-USM Japanese Cultural Centre顧問）

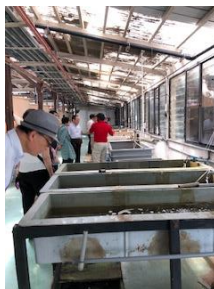
「マレーシアの歴史と道德教育」



2月13日（火）午後 マレーシア科学大学海洋・沿岸研究センターボートに乗って研究所へ 海洋や沿岸のエコシステムの研究についてレクチャーを受ける



マレーシア科学大学海洋・沿岸研究センターの施設を見学



海に浮かぶモスクの見学



2月14日（水）午前 ペナン日本人学校を訪問 英語の授業参観 学校長経営方針を伺う



2月14日（水）午後 マレーシア最大の仏教寺院である極楽寺を訪問し、宗教事情を研究



2月15日（木）予定 午前 難民センター

2月15日（木）予定 午後 世界遺産のジョージタウン訪問（多文化共生研究）



○国際シンポジウム（オンライン）にて、以上のマレーシアスタディツアーの経過報告をした。

### 3. 国際シンポジウムの在り方を考える

国際交流シンポジウムで、現地からスタディツアーの報告することは、少しでもマレーシアの現地に来たことの意義を知らせたいという思いで行なった。マレーシアに来て自分の五感を使って体験したことをなるべく端的にしかも具体的に知らせようと考えた。

朝乗った飛行機が夕陽を浴びてペナンに飛ぶということは、どれだけ日本から遠いかということを実感した一つである。また、美しい海を8人乗りのボートで渡る時は、波が高くなかなかボートに乗り降りができず、ボートがひどく揺れてハラハラドキドキだったこと。モスクの見学では、女性は髪や肌を覆う服装をしなければならず、長いガウンを着ないと中には入れないこと。街に高いビルと緑。イスラームのモスクやインドの寺院や中国の寺院や教会があり、様々な文化が混ざった風景が広がっていること。等など多くの発見があった。これらを現地から写真と言葉で伝えようと試みた。この結果、Zoomでの参加者から、モスクの中に入った時のガウンとはどの様なものだったのか写真を送ってほしいというメールが届いた。また、実際に現地にツアーに参加している先生方からは、ツアーの流れが簡潔にまとまっており、日本の学生にも見せたい等の声を頂いた。

ICT機器の発達した現在、自宅の机から離れなくとも、世界中の人と会話ができること、議論ができることは、素晴らしいことである。今回は、中国、ベトナム、台湾、日本、そしてマレーシア現地とそれぞれの国から顔を見ながら発表や質疑応答ができた。この中で、どの国もSDGsに熱心に取り組んでいる様子が分かった。実際、ペナンの日本人学校の見学の際、校内のあちらこちらにSDGsのクイズが掲示され、物を大切にしようという働きかけをしていることが分かった。

今回のシンポジウムで、マレーシアスタディツアーの経過報告をさせていただいたことは、国際シンポジウムの目的にかなった有効な手法であったと考える。Zoomの参加者に現地の様子を伝えることで、より臨場感を伝え、国際理解の手掛かりになったと考える。今後の国際シンポジウムの在り方の一つの方策として提案できるのではないかと考える。

### 4. おわりに

日本学校教育学会ミニ国際交流シンポジウムにご参加いただきました日本国内および海外の関係者の皆様、誠にありがとうございました。

## ロヒンギャ難民教育施設 —マレーシアにおける難民支援と共生—

守内 映子（日本映画大学）

### 1. はじめに

まずは、東南アジアで発生している難民または東南アジアに入ってくる難民について簡単に整理する。1970年代においては、インドシナ3国(ベトナム、ラオス、カンボジア<sup>註1</sup>)の武力紛争及び社会主義体制への移行、ミャンマー政府と反政府勢力との紛争、インドシナにおける東ティモール侵攻によって生じた難民が挙げられる。また、1980年代からは、スリランカにおけるタミル系勢力<sup>註2</sup>と政府の紛争や旧ソ連によるアフガン侵攻により発生した難民が東南アジアにも流入した。2000年以降においては、アメリカによるアフガン及びイラクへの侵攻によって生じた難民が挙げられる。そして、2010年代では、シリアにおける紛争、それに加えてミャンマー政府の武力弾圧を機にした多くのロヒンギャ難民が生まれた。このような地域外の紛争から発生した難民を東南アジア諸国で受け入れることとなったのである。

今回、私達が訪問した場所は、東南アジアにおいて多くの難民が流入しているミャンマーからのロヒンギャ難民の子ども達に対して、ボランティアで教育支援を行っているペナン島のある施設であった。この施設の訪問に際しては、その場所の特定がされるのを避けることと、子ども達の顔が判別できるような写真をSNS等のネットで情報拡散をしないでほしいとの注意喚起と確認がなされた。

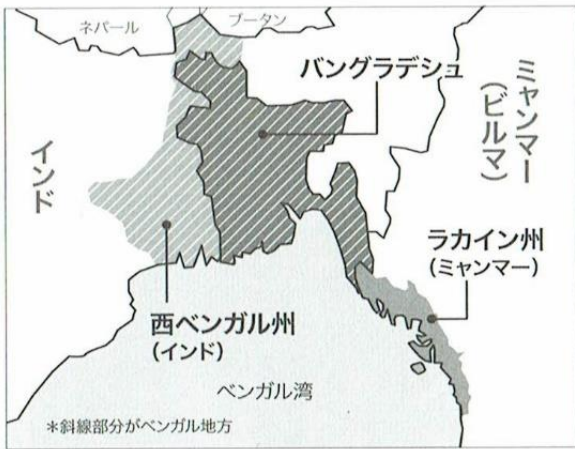
### 2. ロヒンギャ難民の歴史的背景

「ロヒンギャ」とは、どのような人々のことなのであろうか。ロヒンギャは、ミャンマーの西部ラカイン州に居住してきた、インドのベンガル地方(現在のバングラデシュ)に起源を持つ人々である。ミャンマーの人口5,141万人のうち、100万人程がロヒンギャだと言われている。ラカインに定住した彼らは、次第に自分達のことを「ロヒンギャ」と呼ぶようになったと言われる。つまり、ベンガル地方から移住してきた人々が独自の集団を形成してきた名称を指し、固有の民族ではないのである。ロヒンギャの多くはイスラーム教徒であり、国民の9割が仏教徒であるミャンマーにおいては、圧倒的な少数派である。しかも、ロヒンギャにはミャンマー国籍が与えられていない。その背景には、ミャンマー人がロヒンギャに対して持つ差別感情がある(小峯2022)という。

ロヒンギャ難民の発生は、政府の大規模な「国籍調査」に端を発している。1973年3月、ロヒンギャを自国民として認めないビルマ(現在のミャンマー)政府は、西部の国境付近に住んでいた「不法移民」を排除することを目的として、大規模な住民調査を行った。この住民調査によって、「不法移民」と認定され処罰されることを恐れた25万人のロヒンギャが、ラカイン州から隣国のバングラデシュへ避難した。それ以降、政府や軍の弾圧や迫害が繰り返されるたびに、多くのロヒンギャは国外への避難を余儀なくされてきたのである。特に、2015年5月、子どもと女性を乗せたボロボロの木造船がインドネシアのアンダマン海沖を漂流し、乗っていたロヒンギャ約2000人が救助されたニュースは、彼らの存在を世界に知らしめた出来事だったのではないだろうか。以来、インドネシア経由でマレーシアに渡ってくるロヒンギャ難民は後を絶たない(日下部・石川2019)という。私達が訪問した施設の子ども達は、インドネシアのみならず、タイ経由また

は直接船で逃れて来た、2016年以降の避難民であると推測される。

■ラカイン州・ベンガル地方



小峯(2022)33 項より引用



イシモト(2023)

### 3. マレーシアにおける難民の受け入れ状況

難民対応を考えるうえで重要なこととして、「難民条約<sup>註3</sup>」が存在する。東南アジア 11 各国において、この条約を批准しているのは、フィリピン、カンボジア、東ティモールの 3 各国のみである。すなわち、マレーシアは難民条約の未批准国である。しかし、イシモト(2023)によると、マレーシア国内の難民と亡命申請者<sup>註4</sup>は、2023 年現在で約 181,300 人であり東南アジア諸国内で最も多く、その内訳はロヒンギャ難民をはじめとするミャンマーからの難民が約 86%を占めるという。ちなみに、難民の受け入れ数は上位から、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピンである。難民条約に批准しているフィリピンやカンボジアよりも、未批准国のマレーシア、タイ、インドネシアの方が多くの難民を受け入れているということになるのである。

マレーシア国立大学のアジザ・カシム教授(2018)は、次のように述べている。①マレーシアは難民条約に加盟していないが、難民の滞在を人道的に認めている。しかし、その滞在は、あくまでも一時的なものである。②マレーシア政府は 2006 年にミャンマーからの難民に滞在資格を与えようとしたが実現しなかった。その理由は、中華系野党からの批判を気にしていることと、多くの難民を呼び込み混乱を招く恐れが懸念されるからである。③マレーシアは労働力不足であることから、難民にも法的な滞在資格を与えて合法的な労働を認めるべきではないか。難民の多くは、マレーシア人が就きたがらないキツイ仕事を最低賃金の半分の給料で働いている。そこで利益を得ているのは、雇い主だけであり、難民に法的な滞在資格を与えることが、国にも国民にも利益になるのではないだろうか。



クアラルンプールのロヒンギャ難民宅に掲げられたマレーシア国旗（写真：Overseas Development Institute / Flickr [CC BY-NC-ND 2.0]



ペナンで訪問したロヒンギャ難民教育施設入口階段

#### 4. ロヒンギャ難民教育施設訪問

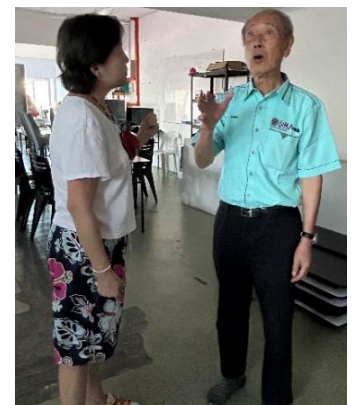
2024年2月15日(木)午前9時過ぎに到着した。教室の場所は、ペナン市内の住宅地にある3階建てのビルの一室だった。中はとても広く開放的な空間が広がっていた。

##### 4-1 教育施設について

現地を案内してくださったのは、USM(マレーシア科学大学)Japanese Cultural Centre の副田雅紀(Soeda Masatoshi)先生(写真右側の男性)であった。先生によると、以前は大学の近くにあった「ピース・ラーニング・センター」で難民支援が行われていたのだが、経済的な理由から運営が困難となり閉鎖された。その後、2020年頃になってこの場所が見つかり支援が再開された。コロナ禍の影響により、外部者の訪問が可能になったのは昨年からだという。また、こちらの運営は、イスラームの宗教団体や寄付金によって賄われており、政府からの支援については不明だそうだ。

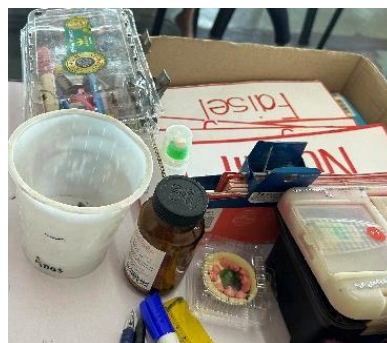
当日の授業担当であったジュリア先生(写真左側の女性)から伺った話を以下にまとめる。

- ① Dr.リンが道路で遊んでいた難民の子ども達を見つけ、ここで教育を受ける第2の場所を用意した。子ども達の最初の場所はコンテナだった。そこは、大きなコンテナであり、非常に暑かった。寄付が集まって、私達はこの場所を借りることができた。ちょうどここに移ったばかりで、少し前まで道路の向こう側にいた。
- ② この学校は、私達がやってきた仕事によってどんどん成長している。多くの子どもが集まって来て、一時は断らなければならない状況もあった。まだ十分ではないが、多くの支援金が集まり、USMの近くのSungai Duaに別の学校を開設した。まだいろいろと足りないけれど、特に教師が足りない。今日も、一人の先生が病気で来られず、今朝のこのクラスは自分が代わりにやることになった。他のクラスはキャンセルしなければな



らない。

- ③ 私は、幼児教育の資格を持つ教師だが、ここで子どもたちに基本的な英語を教えている。それは難しいと感じる。なぜなら、基本を教える時は、私の口だけを使う。しかし、子ども達には目があり、見て感じなければ本当の理解はできないから。ぜひ、今日は子ども達にシンプルな英語で話しかけてほしい。それを彼らが受け入れることができるかどうか確認し楽しんでほしい。
- ④ ここには、4歳から19歳の子どもがおり、とても大きなギャップがある。彼らは、非常に貧しく、食べ物さえ足りない。だから、寄付を集めて食べ物を与え、健康を守る方法を教えることで助けている。そして、彼らの成長を見守っている。
- ⑤ 子ども達は、親が UNHCR を通して他の国、アメリカやヨーロッパに行くまで、ここにいる。違う国に行く時の面接では英語が必要になる。面接官は英語で話すため、子ども達は全てのことを英語でやり取りしなければならない。話すだけでなく、読み書きも教えなければならない。だから、私達は助けている。
- ⑥ Dr.リンは若い女性の医師なので、今日も仕事で来られないが、皆さんの訪問を喜んでいる。彼女は、とても心優しく、子ども達に多くの助けを与え、いつも彼らが安全かどうかを確認している。
- ⑦ ここでは通常、寄付金を募っており、今日のように応援してくれる人みんなの善意で運営している。私達は Facebook にもいるので検索してみてください。そこで私達の仕事や人々がどのように助けてくれたのかを確認することができるので、ぜひ多くの方が助けてくれることを願っている。
- \*ここで、私達に同行し様々なサポートをしてくれた USM の学生4名が紹介され、いくつかやり取りがあったことから引き続き次のような話がなされた。
- ⑧ 子ども達の文化はマレーシアの文化とは異なる。ここにいる子ども達は、私達の家族のように愛されているわけではない。とても難しい子どもであり、彼らは過酷で困難な人生を経験している。だから、私達の地元にあるような学校とは違う。教えるのも学ぶのも難しい。なぜなら、彼らは私達を信頼していないから。だから、私達は忍耐強く努力しなければならない。彼らが知らないことに対して怒りっぽくなってはならない。子ども達に多くのチャンスを与えなければならない。さもなければ、子ども達は道に迷い役に立たない人間になってしまう。



教室にある教師用のデスクには、ノートやワークブック、名札、ペンなどが置かれていた



## 4-2 授業風景から

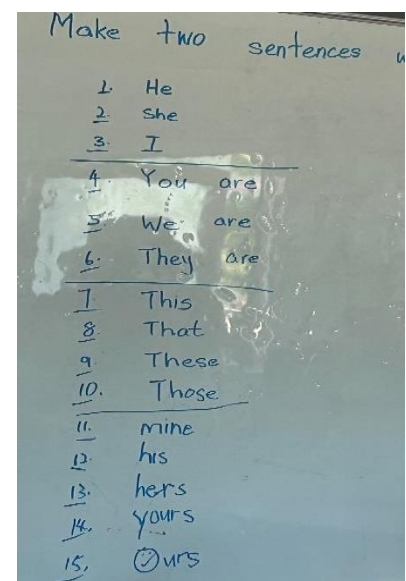
通常のクラスは、28名の子ども達の基本的な英語のクラスであり、初心者向けの年齢が異なる男女混合だということだった。ジュリア先生から、授業の始めに私達の紹介があった。そして、子ども達一人ずつに名前と年齢を尋ね、子ども達はその場で立って答えていくという授業が始まった。この時間に出席した子ども達は20名弱(7歳~14歳)だった。

ジュリア先生は“Good morning.” “What is your name?” “How old are you?”などと質問しながら答えさせていった。また、遅れて来る子どもや伏せて眠っている子どもにも、その都度ゆっくり声掛けをしていた。ここに新しく来たばかりの子もいれば、2年か3年経っている子もいるとの説明もあった。また、来たばかりの女の子に対して「ここに来てから何か月経ったの?」「2か月?それとも3か月?」と、マレー語で話しかける場面もあった。彼らは、まだ英語とマレー語を知らないで、モスクが主催する学校に行き、そこで優れたマレー語の先生から Bahasa Malaysia (マレー語)を習い、そしてここへ来るのだということだった。ジュリア先生は、マレー語は市場で食べ物を買う時にしか使わないのであまり得意ではないとのこと。子ども達は、年上の子ほど恥ずかしがることもあり、年下の子は何でも受け入れ速いスピードで多くのことを理解していく。そして、彼らは、自分の国の言語と英語を結びつけていくようになるという。

授業の過程では、子ども達が順々に答えていく中で、「目を見て」「笑顔で」と励ましながら進めるジュリア先生の姿が印象的だった。“I hope you all can have a nice time in Malaysia”とも述べられた。また、途中で、英語がなかなか出てこない少年に関しては、彼が頭の中で英語に翻訳しているから、目が上下に動いているのだという説明があった。新しく入ったばかりの少女に英語の質問が通じないことがあり、隣席にいた3年在籍している別の少女に通訳をしてもらうという場面もあった。

さらに、ジュリア先生からは、小さい子ども達とはたくさん歌い、歌や韻を踏む練習で英語を日常生活に適用しやすくなるように工夫しているとのこと、数字やアルファベットの書き方がミャンマーの書き方と異なる等、「書く」スキルを教えるのが頭痛の種だったが、彼らは常に楽しんで理解することが必要だとのコメントもあった。そして、今日は中国の新年後の初めての授業でもあり、6週間前に教えたことの復習をしたいと考えている。この後、エクササイズブックを使い2つの文を作らせる予定で、“He, She”そして“I”2番目に“You are” “We are” “They are”と教える。“This, That”の使い方とそれぞれの複数形、どのように代名詞を使うのか、彼らはすでに学習しているが、英語では非常に重要なので復習して質問に答えてもらい確認します、との説明も行われた。

続いて、訪問団の私達のメンバーから2名の先生が飛び入り授業を披露された。まず、齋藤道子会員により「ゲー・チョキ・パー」と“Stone, Scissors, Paper”を動作と発音・意味で結びつけ練習した後に、ジャンケンに発展させて勝ち負けをやり取りするというアグレッシブな授業が展開された。次に、下島泰子会員により、「1 イチ・2 ニイ・3 サン・4 シー・5 ゴー」を“itchy, Knee, sun, sea, go」の発音につなげて動作で説明しつつ、日本語の数字の読み方を覚えるという、やや複雑な授業が行



教室にあった板書

われた。いずれも楽しく盛り上がり、子ども達は笑顔が溢れ嬉しそうに参加していたことをここに報告する。

#### 4-3 子ども達の様子とインタビューから

授業と記念撮影を終えてから、個別に話しかけた。「将来の夢は？」という質問には、「doctor」という答えが返ってきた。バディとして参加していた USM の男子学生がマレー語で話しかけてくれたが通じるのは難しい様子だった。「英語は楽しい？」という質問も難しかったので、「英語は Happy？」に変えて聞いたところ「少し」という答えが返ってきた。



私達が階下に行く際、この後のクラスで授業を受ける準備をしていた、10代半ばから後半の男子達の数名が、教室スペースの上から階段をのぞいて顔を見せ笑顔で見送ってくれた。また、ビルの外に出た私達を3階の教室窓から、ずっとこちらに手を振ってくれた姿を忘れることはできない。いや、彼らの胸中を思うにつけ、忘れてはならない。

#### 5. おわりに

多くのロヒンギャは、仕事を求めてマレーシアもしくはオーストラリア行きを望んでいるという。しかし、そこで大きな問題は、文字が読めないこともあり情報が非常に限られ、人身売買組織に騙されて、マレーシアに渡ってもひどい人権侵害を受けている場合があるということだ。さらに、人身売買組織に多額の借金をして非正規ルートでマレーシアに渡って来ても、借金を返すだけでなく、約束の賃金も支払われない状況で働かされるケースもある。マレーシアでは多くの NGO がロヒンギャの子ども達が学べる環境を作っているようだが、政府が認めた学校ではないため、大学には行けず、また身分証明書もなく 3Ds(Dirty, Dangerous and Demanding/Difficult)と言われる職業にしかつけない(日下部・石川 2019)という。ロヒンギャの根源的な問題は、ロヒンギャの人々が被っている直接的及び構造的暴力であり、恒常的な迫害と国家による差別の醸成とその正当化である(杉江 2021)という指摘もある。

難民問題、ロヒンギャ難民、多文化共生、、、それらの言葉は理解しているつもりだった。しかし、本当の意味で理解できていなかった。なぜなら、体験したことがなかったからだ。今もまだ理解できているとは言いがたい。私自身が学習はしても学んではいなかったのだと思う。「百聞は一見に如かず」というのが正にその通りだった。そして、「見る」だけでなく「肌で感じる」ことが何より重要であった。日本にいるだけでは分からない。このような世界の現実をどのように受け止めれば良いのだろうか。たくさんの宿題を持ち帰った訪問となった。

最後に、私達が授業に参加していた 1 時間程度の間には、外で激しい爆竹音が何度も鳴り響いていた。Chinese New Year の最中ということなので、この街にとっては当たり前の光景だった。他民族・多言語・多文化の日常がそこにはあった。

## [参考文献]

- ・『ぼくはロヒンギャ難民。』小峯茂嗣、2022年、合同出版
- ・『ロヒンギャ問題とは何かー難民になれない難民』日下部尚徳・石川和雄、2019年、明石書店
- ・「ロヒンギャ難民のミャンマーにおける経験ーバングラデシュナヤパラキャンプにおけるインタビューをもとにー」杉江あい『広島大学現代インド研究ー空間と社会』Vol.11 1-19、2021年
- ・「東南アジアにおける難民の現状」イシモトハヤト Hayato Ishimoto、GLOBAL NEWS、2023年7月13日 <https://globalnewsview.org/archives/21761>(2024年2月23日取得)
- ・NNA POWER ASIA アジア経済ニュース <https://www.nna.jp/>(2024年2月19日取得)
- ・「難民に法的な滞在資格を」アジザ・カシム、World Now、2018年12月17日 <https://globe.asahi.com/article/11630791>(2024年2月23日取得)

## [註]

- (1)1975年、インドシナ3国で発生した武力紛争やアメリカなどによる軍事介入によって生じた難民を指す。
- (2)タミル語を話す民族で、スリランカにおいて、1976年にタミル・イーラム解放のトラ(LTTE)という武装組織を設立した。
- (3)難民の地位に関する条約(1951年条約)と難民の地位に関する議定書(1967年議定書)を合わせて「難民条約」と呼ぶ。
- (4)自国を離れ、他国に保護を求めた国から、自らを受け入れることに同意した第三国へと移ることを指す。

\* ジュリア先生から話が出たボランティア団体(NGO)の公式サイト↓

Kindness and compassion

**Let us be # Selfless Together**

In Selfless Together, we not only aim to provide formal education to our children, but we also strive to teach our children kindness and compassion. Every child has the potential to shape and change the world.

We involve our children in our community service activities such as food distribution to the homeless/vagabonds and visits to hospice centers. In the future, we intend to organize more activities for children to participate in. We believe that the best way to inspire children to be kind, is to show them kindness.



寄付受け付けサイト : <https://selflesstogether.com/about-selflesstogether/>

## ロヒンギャ難民施設（マレーシア）の様相と所感

青木一（信州大学）

### 1. ロヒンギャ概略とマレーシア

「ロヒンギャ」は一般的にミャンマーのイスラーム系少数民族のことを指しているが、居住地域はミャンマー、バングラデシュの領国にまたがっている。ミャンマー政府は、彼らのことを「不法移民のベンガル人（バングラデシュ人）であり自国民ではない」という立場を一貫してとっている。一方で、バングラデシュ政府も、ミャンマーに属する民族集団という立場をとっているため、ロヒンギャはどちらの国籍を持つことができないでいる。

ロヒンギャ族が迫害された経緯については第二次世界大戦後までさかのぼる。さらに1962年に起こった軍事クーデター以降、中央集権的な社会主義体制（ビルマ式社会主義）によりロヒンギャに対する扱いが急速に差別的になっていった。2012年の6月にはロヒンギャとアラカン仏教徒との間に大規模な衝突が起き、ロヒンギャ排斥運動はエスカレートした。暴力を恐れたロヒンギャはミャンマーからの脱出を試み、2019年時点では91万人の難民が出たとされる。ロヒンギャはまず、陸路で一番近いバングラデシュに向かうが、仮定住キャンプでは飽和状態となり、海路でタイやマレーシアを目指した。しかし、タイやマレーシアを始めとする東南アジア諸国は、ロヒンギャを「難民」ではなく、「経済移民」としてみなし、受け入れを拒否した。この事態に、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)もロヒンギャ支援に乗り出した。これに対し、マレーシアおよび周辺国は対応を若干軟化させ、毎年数千人のロヒンギャがマレーシアへ過酷な船旅で入国している。

マレーシア国内にはいくつかの難民センターが存在している。難民の中には保護者がいない子ども、乳幼児を抱える女性、身寄りのない高齢者なども多く、専門の保護チームによるケアも行われている。難民キャンプでは「水と衛生」「保健」「栄養」「教育」「子どもの保護や開発のためのコミュニケーション」など多岐にわたる支援活動が行われている。

### 2. 難民センター

本スタディツアーは、マレーシア科学大学（以下 USM）の北側ミンデン地区にあるペナン平和学習センター（国連難民高等弁務官事務所の業務委託施設のロヒンギャ難民教育施設）を訪問する予定であった。しかし、今回、急遽、別の難民センターを訪れた。本施設は、その存在および住所等、詳細は明らかにすることはできない。当該施設への何らかの不利益が生じることが予想されるためである。施設運営等の内容に関しては守内氏に委ねることとし、本稿では授業中に垣間見たロヒンギャの子どもの様相に言及する。齋藤道子氏の飛び込み授業「じゃんけんアクティビティ」では、楽しそうに一緒にじゃんけんをする子ども等の右後ろ後方に座っていたハラくん（仮名）11歳は、終始うつろな目をして、何の興味を示さず、全てをあきらめた感を表出してい



写真1 施設に掲示してるポスター

る顔が印象的だった。下島泰子氏が何か言葉かけをした時、一瞬はにかんだ笑顔が見られた。私は休憩時間にハラくんにいっつか質問をした。「英語の授業は難しい?」。無表情でコクリとうなずいた。「この学校は楽しい?」。こちらの目を見てはにかんで「うん」とうなずいた。「どのようなところが楽しい?」と突っ込むとそれ以上の返答がなかったため、質問を終了した。



写真2 飛び込み授業をする齋藤道子氏、下島泰子氏

我々のファシリテータをしてくれたクアラルンプール出身で USM 2年の S さん (21 歳) は本施設を初めて見学し、次のように述べた。

When we visited the Rohingya school, I felt shocked at first – not by how underprivileged they were, but by how educated and determined they are and will be. I was deeply moved during the visit, feeling a mix of empathy and a strong desire to contribute positively in any way I can. I'm thinking about helping out by teaching them basic English next semester. Since my major is English for Professionals, it feels like I should do something good for them.

私たちがロヒンギヤ学校を訪問したとき、私は最初に衝撃を受けました。彼らがどれほど恵まれていないかということではなく、彼らがどれほど教育を受け、決意を持っているか、そしてこれからもそうであろうということに衝撃を受けました。私は訪問中に深く感動し、共感と、できる限り積極的に貢献したいという強い願望が入り混じった気持ちになりました。来学期は彼らに基礎英語を教えて手伝おうと考えています。私の専攻はプロフェッショナル英語なので、彼らのために何か良いことをしなければいけないという気持ちがあります。

### 3. まとめにかえて

短い滞在とわずかな説明・質問をエビデンスにして論考すべきでない。あくまでもその場面を切り取った主観による所感である。

マレーシアは他の東南アジア諸国よりロヒンギヤに対してわずかながらもふところの深さがあるように思う。それはマレーシア社会が多民族・多文化を抱えている現状があり、また、イスラーム教徒が多いという基層にあるのだろう。ロヒンギヤ問題は政治・宗教・経済・人種等様々な要因が複雑に絡まっている **Complex Problem** ではあるが、教育に携わる我々の願いは、ハラくんに笑顔が訪れる日が来ることを願うばかりである。

参考文献：財務省財務総合政策研究所「ロヒンギヤ問題の歴史的背景」2018

# 世界遺産ジョージタウンの歴史探訪 —マレーシア・ペナン島における多文化共生の文化と社会—

祐岡 武志（阪南大学）

## 1. はじめに

マレーシアのペナン島北東部にあるジョージタウンは、同じマラッカ海峡に面するマレー半島南西岸のマラッカとともに2008年にユネスコの世界文化遺産に登録された。この2つの世界遺産は共に港町で、歴史的に交易活動を目的として定住化した異国人（主に中国福建省にルーツを持つ人々）が中心となった。彼らの子孫をマレー語で「プラナカン」と呼び、現在もマレーシアで活躍する人々はプラナカンの家系であることが多い。

日本学校教育学会の実践研究委員会は国際交流委員会との共催で、2024年2月12日から16日の5日間、2023年度海外スタディツアー「マレーシア ペナンで探る多文化共生・環境問題」を実施した。本稿では、このスタディツアーにおける2月15日（木）の活動の1つとして、世界遺産であるジョージタウンの歴史探訪について報告する。



写真1 ジョージタウンの中心街

## 2. ジョージタウン探訪

### 2-1 橋李姓と姓周橋

ジョージタウンで最初に訪れたのは、橋李姓と姓周橋である。これらを含む6つの栈橋が現存しており「同姓一族の栈橋（伝統水上家屋）」とも呼ばれる歴史的建造物である。その名のとおり、中国人がペナン島に移り住んだ際に同姓の移民が集住した水上家屋である。栈橋の周辺は干潟となっており、ハゼや蟹など海洋性生物が生息する。ジョージタウンが世界遺産に指定されたことで、これらの栈橋も保存されることになった。木製の栈橋に面する左右の住宅の多くは土産物店や飲食店で観光地化しているが、奥の家屋は今も日常生活の場であり、狭い栈橋を住民と思われるバイクが観光客を押し分けて通行していた。



写真2 橋李姓



写真3 橋李姓の栈橋



写真4 姓周橋



写真5 姓周橋の土産物店



写真6 通行するバイク

## 2-2カピタン・クリン・モスク

マレーシアで最大級のイスラーム寺院で、1801年に裕福なインド人のイスラーム教徒によって建設された。カピタンはキャプテン、クリンはマレー語でインド出身者を指すことも、その由来を示している。端正なドームと美しいミナレット(尖塔)を備えるインドの伝統的なムガル様式の建築物である。見学の際は、若い女性の信者がガイドを務めてくれた。信者は男女によって入り口が異なることや、入堂前に水を満たしたプールで身を清めること、ミナレットは礼拝の合図であるアザーンを行う場所であることなどの説明を受けた。



写真7 カピタン・クリン・モスク



写真8 モスクの尖塔



写真9 モスクのプールとガイドの女性

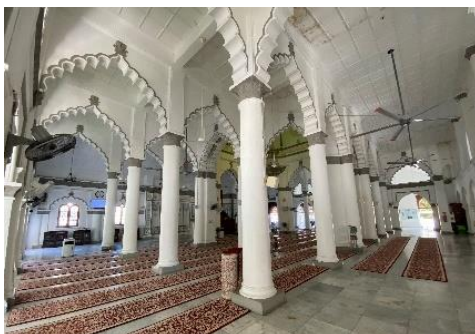


写真10 モスクの内部



写真11 メッカの方向



写真12 モスクでの講義の様子



### 2-3 マハ・マリアマン寺院

1883年に建設されたジョージタウンでは最古のヒンドゥー寺院である。建物正面が色鮮やかな彫刻で装飾されており、否が応でもその鮮やかさに目を奪われる。内部にはヒンドゥー教の神々の彫像があり、中でもダイヤモンドで装飾されたスブラマニウム神が知られている。残念ながら、我々がジョージタウンを訪れた際は正面の柵が閉ざされ、内部を見ることはできなかった。ガイドをしていただいたマレーシア科学大学の副田先生のお話では、寺院の周辺はリトル・インディアと呼ばれる地域で、大きな通りに面した店舗の多くがインド系の両替商や貴金属商であるという。



写真 13 マハ・マリアマン寺院



写真 14 リトル・インディア周辺



写真 15 インド系の店舗

### 2-4 観音寺

1800年代にペナン島に入植した中国人（特に広東人と福建人）によって建てられたペナン島で最も古い中国寺院である。慈悲の女神とされる観音像が祀られていることが、その名の由来であり、建物の柱や屋根には独特な彫刻が施されていることも目を引く。加えて、参拝者が奉納する線香の煙が絶えず、家の前に飾られるという門松のような線香はその大きさと煙の量に圧倒される。訪問時は中国の旧正月に当たるため、建物から入口に向かってランタン（提灯）が掲げられていた。また、慈悲を司る観音にあやかっか、生活困難者への支援物の配布もこの寺院前で行われるという。



写真 16 観音寺



写真 17 参拝の様子



写真 18 寺院の大きな線香

これら4カ所の見学から、ペナン島が中国、イスラーム、インドなどの異なる文化で形成される多文化共生社会であることが実感できた。

この後、アルメニアン・ストリートに面した **Sutera Restaurant** で昼食をとった。昼食後はストリートアート（後述）で有名なアルメニアン・ストリートを散策する予定であったが、時間の関係でジョージタウン探訪は昼食までで終えることとなった。



写真 19 Sutera Restaurant



写真 20 Restaurant の絵



写真 21 昼食のナシゴレン

### 3. 世界遺産としてのジョージタウン

#### 3-1 ジョージタウンの顕著な普遍的価値

ペナン島は、1786年イギリス東インド会社のフランシス・ライトが東南アジアの拠点として入植したことで、マレーシアで最初のイギリスの拠点となった。ジョージタウンはペナン島の領有を宣言したライトによって、イギリス王ジョージ3世にちなんで命名されたという。今回のスタディツアーでは訪問できなかったが、ジョージタウンにはライトが建造したコーンウォリス要塞や1818年に建築された東南アジア最古のイギリス教会であるセント・ジョージ教会など、イギリス統治時代からの歴史的遺産も数多く残る。

ジョージタウンにはハーモニーストリートとも呼ばれる大通りがある。この通り沿いには、セント・ジョージ教会や我々が訪問したカピタン・クリン・モスク、マハ・マリアマン寺院、観音寺がある。この地でキリスト教、イスラーム教、ヒンズー教、仏教など異なる宗教を信仰する人々が互いを尊重し、争うことなく共存してきたことが、「ハーモニー」の由来であり、ジョージタウンがユネスコの世界遺産に登録される要因の一つとなった。

世界遺産に認定されるには、全部で10個ある登録基準を1つでも満たす必要があり、ジョージタウンは次の3つが登録基準である（下線部は引用文献<sup>(1)</sup>の強調箇所）。

- (ii) 建築や技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展において、ある時期または世界の文化圏内での重要な価値観の交流を示すもの。
- (iii) 現存する、あるいは消滅した文化的伝統または文明の存在に関する独特な証拠を伝えるもの。
- (iv) 人類の歴史上において代表的な段階を示す、建築様式、建築技術または科学技術の総合体、もしくは景観の顕著な見本。

すなわち、ジョージタウンは東アジアと東南アジアの多文化交易の様子を示す都市であること (ii)。中国系、イスラーム系、インド系の宗教や生活文化が共存していること (iii)。ショップハウス (後述) に代表されるような、独特な建築様式に基づく街並みが残されていること (iv)。これらが、ジョージタウンの世界遺産としての顕著な普遍的価値となる。

### 3-2 世界遺産としての課題

藤原 (2017) によれば、ペナン島では 2000 年までの家賃統制令により、1948 年以前に建設された建物には都市化による家賃の高騰が抑制されていた。そのため、人口減少によるスラム化や大規模な再開発は抑止されたが、地主の不動産収益は低くとどまり、古い建物の修復、改修も滞る状況となった。このため、世界遺産としてふさわしい古い町並みが残されたが、建物の維持管理には問題があったという。しかし、2000 年に家賃統制令が廃止されたことと、2008 年ジョージタウンの世界遺産登録により、状況が大きく変化した。老朽化した建物や街並みの再整備が進んだことは、メリットである。一方で家賃が高騰し、元々の住民が中心街を離れ、本来の生活文化が失われつつあることが問題となっている<sup>(2)</sup>。我々を案内していただいた副田先生のお話によれば、このような変化は中心街だけでなく、橋李姓や姓周橋なども観光地化により従来の住民が減少しているという。

ジョージタウンの中心街にはショップハウスと呼ばれる店舗と住居を兼ねた 2～3 階建ての建物があり、伝統的建築物として古い街並みを形成している。しかし、藤原 (2017) によれば、不動産価値の高騰により、これらの多くがホテルやレストランに改修されているという。老朽化した建物が原型を保持して修復されることは景観上好ましいが、伝統的な生活を送っていた住民が家賃高騰により流出することは大きな問題となる。これにより、多文化共生の象徴であった地域コミュニティの維持が困難となり、世界遺産としての顕著な普遍的価値の喪失につながりかねないことが危惧されている<sup>(3)</sup>。



写真 22 ショップハウスが連なる街並み



写真 23 装飾が施されたショップハウス

また、2012 年頃から注目されるようになったストリートアートにも新たな課題がある。リトアニア出身のアーティスト、アーネスト・ザカレヴィッチによる「自転車に乗る子ども」は有名で、子どもが壁画で実際に壁際に置かれた自転車に乗っているかのように描かれている。以降、この通りを中心に多くのアーティストにより同様の壁画が描かれるとともに、それを目当てとした訪問者が急増した。世界遺産は本来、建物



写真 24 「自転車に乗る子ども」を印刷した土産物



写真 25 姓周橋の水上家屋に描かれたアート

など従来の状態に手を加えることは制限されているが、壁画は増加している。また、伝統的な街並みにそぐわない壁画も散見されるようになり、新たな壁画を制限しようとする動きもあるという。

#### 4. おわりに

世界遺産ジョージタウンの歴史探訪では、多文化共生の様子を示すイスラーム、ヒンドゥー教、仏教の宗教施設を中心に見学をした。また、ショップハウスが形成する伝統的な街並みと、そこで生活をする人々の様子を垣間見ることができた。限られた時間であったが、ペナン島の多文化が織りなす生活文化の現状にふれることができた。一方で、ジョージタウンを最初に形成したイギリスの遺構やプラナカンの様子を伝える博物館などを直接目にするができなかったことは残念である。また、世界遺産であることが災いし、伝統的な多文化で形成されたコミュニティが失われつつあることを考えさせられる場面もあった。

ペナン島には公共交通機関としてバスはあるが、トラムや地下鉄など鉄道網は未整備で、住民の多くが自家用車で移動する。実際、我々も移動の際には何度か交通渋滞に会い、通りを歩く時には、車の排気ガスによる大気汚染は日本よりも深刻なことを体感した。

観光と生活の両立、開発と保全の問題は世界遺産に限ったことではないが、これらの相克は、持続可能な開発をテーマとした学校教育における探究的な課題<sup>(4)</sup>として扱うことができよう。多文化共生社会としての歴史と文化が息づくジョージタウンとペナン島が、今後も魅力に満ちた共生の地であり続けることを強く願う。

#### [参考文献]

- 『カラフルなプラナカンの街 ペナン&マラッカへ』、丹保美紀、2019年、イカロス出版。  
『地球の歩き方 マレーシア ブルネイ 2023-2024』、地球の歩き方編集室、2023年、学研。

#### [注]

- (1) NPO 世界遺産アカデミー、『世界遺産大事典〈上〉第2版』、マイナビ出版、2021年、27頁。  
(2) 藤原雅、「世界遺産であるペナン島ジョージタウンの変容」、『京都芸術大学 WEB 卒業研究展』、2017年、<http://g.kyoto-art.ac.jp/reports/998/> (2024年2月25日閲覧)。  
(3) 前掲(2)  
(4) 祐岡武志、『世界史教育内容編成論研究』、風間書房、2022年、80-84頁。

## 感謝のまとめ

中山 博夫（目白大学）

本マレーシアスタディツアーの報告書を作成していて、私の胸中にこみ上げてきた思いは感謝である。今回のマレーシアスタディツアーを実施することができたのは、ひとえにマレーシア科学大学 日本文化センターの副田雅紀顧問のおかげである。マレーシア科学大学 言語・リテラシー・翻訳学部に受け入れていただけのも、副田雅紀先生が先生の盟友であるアズリル副学部長先生に交渉の労をとってくださったおかげである。

ペナンでは、お二人の他にも多くの方のお世話になった。マレーシア科学大学 海洋・沿岸研究センターのアネット副所長をはじめとした所員のみなさん、**Selfless Together**（難民センター）のジュリア先生、マレーシア科学大学の学生のみなさん、日本からのマレーシア科学大学への留学生のみなさん、ペナン日本人学校の山本泰校長先生をはじめとした先生方などである。私たちは、多くの方々のおかげで有意義な学びができたのである。私たちは、ペナンで多くの方々の温かな心にふれることができた。心より感謝申し上げたい。

マレーシアスタディツアーで、私たちが築くことができたつながりを絶やすことなく、日本学校教育学会の財産として、そして日・マ友好のために連綿とつないでいこうという希望を抱いている。

また、本報告書が日本とマレーシアの教育研究の進展に少しで貢献できれば、それは望外の喜びである。

本報告書の作成には、峯村恒平 実践研究委員会委員（目白大学）のご尽力が欠かせなかったことを付け加えさせていただく。

2024.3.11

2023 年度日本学校教育学会 マレーシアスタディツアー参加者名簿

- 多田 孝志 会員（金沢学院大学教授；団長、実践研究委員会顧問、常任理事）
- 林 尚示 会員（東京学芸大学教授；国際交流委員会委員長、常任理事）
- 神永 典郎 会員（白百合女子大学教授；実践研究委員会副委員長、理事）
- 祐岡 武志 会員（阪南大学教授；実践研究委員会委員）
- 下島 泰子 会員（お茶の水大学特任准教授；国際交流委員会委員）
- 守内 映子 会員（日本映画大学准教授；実践研究委員会委員）
- 眞壁 玲子 会員（文京学院大学講師；国際交流委員会委員）
- 山崎 保寿 会員（静岡大学名誉教授）
- 青木 一 会員（信州大学教職大学院特任教授）
- 澤井 史郎 会員（目白大学元専任講師）
- 齋藤 道子 会員（目白大学教授）
- 西川 寿美 先生（非会員；昭和女子大学元教授）
- 中山 博夫 会員（目白大学教授；実践研究委員会委員長、常任理事）

順不同